

## 【ことこ】

隣のお姉さんの家に、おとこが出入りしている、という噂が立ちました。

村びとたちが云うおとこは、やっぱりおとこであって、お姉さんのおとこという意味でしょうから、ぼくとしては気になって、気になってしかたがありません。

夜も眠られない。

たまに眠っても、夢の中におとこやらが現れる。

しかも、見るたびにおとこが違う。

歳も容姿もなにもかも。

気分がわるくてたまらん。

ぼくはそのおとこやらを、実際この目で見た事がないのだから、そんなことになるんだ。

まずはこの目でみるのが先決だ、とかんがえました。

そうしてちゃんとみんなに報告して、噂を止めさせたいとかんがえました。

「おねえさん、いるかのう」

「あら、金ちゃんね、ここに居ますわよ」

「なんだ、いたのか」

「いらっしゃい。わたし、居てはいけなかったかしら」

「おねえさんは、いてもええがのう。おとこは、いるんかのう」

ぼくは云いにくかったけれども、それを云うためにわざわざきたのだから、思いきっていいました。

「おとこ、おとこって、金ちゃんのことかしら」

「とぼけるでない。わたしはまだ、おとこになっとらん」

「金ちゃんったら、冗談がお上手」

「じょうだんじゃないのう」

「それなら、おとこは、どこに居るのかしら」

「それをきいとるんじゃ」

「おとこは、居ませんわよ」

「いませんわよ、かのう」

「おとこは、居ませんが、でもね」

「でもね、なんじゃ」

ぼくの心臓が大きく鳴りました。

「ことこ、なら、居ますわよ」

「ことこ、かのう」

「そうよ、ことこ」

「ことこ、かのう」

「そうよ、ことこ」

「ことこ、だったんじゃ」

「そうなの、ことこだったのよ」

「ことこが、いるんか」

「ことこったら、大昔からいるのよ」

「そうかい、ことこのう」

ぼくは納得して帰ってきましたが、ぼくの報告を聞いた村びとたちはだれも納得  
しませんでした。

それでもそれきり、おとこの噂はまったく立たなくなりました。